（令和6年3月7日作成）

令和5年度大阪府中学生チャレンジテスト　中学2年生　結果概要

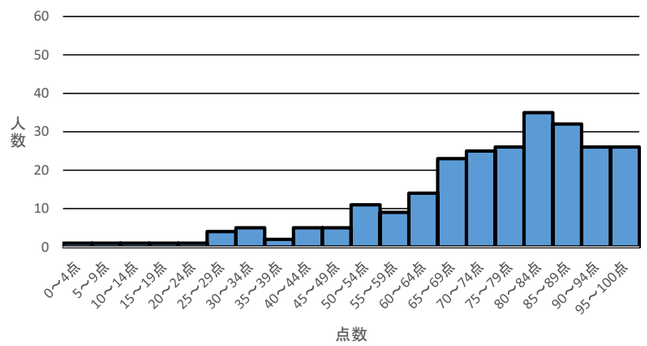
教育推進課

実施日時：令和6年1月10日（水）
対象・内容：**第2学年**〈国語・社会・数学・理科・英語、各教科アンケート）
※社会はA問題、理科はB問題を選択

実施校数：2校（府内470校）
実施生徒数：261人（府内57，485人）

1．度数分布及び教科別結果概要（平均点）

国語

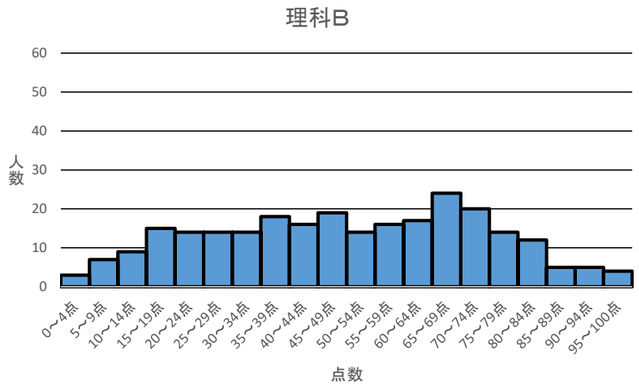


	平均点	無回答率
島本町	73.8	5.6
大阪府	66.8	8.3

良好
・読み手の立場にたって、文を整えることができる
・必要な情報を整理し、内容をまとめることができる

課題
・文脈に則して漢字を正しく書き、読んでいる（舞台、アびる）
・話し合いの方向をとらえて話すことができる

理科B

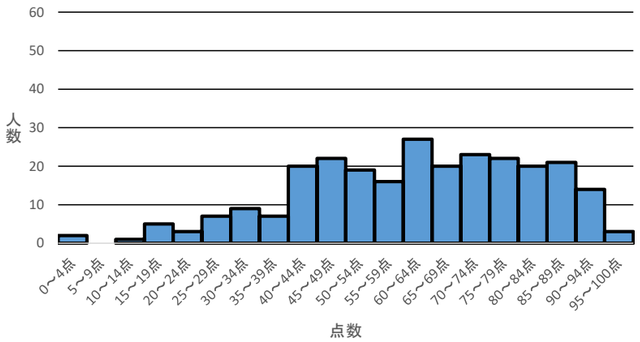


	平均点	無回答率
島本町	49.4	9.6
大阪府	40.3	11.8

良好
・レンズ（水晶体）について理解している
・誤差の扱いやグラフ化など、測定値の処理の仕方について理解している

課題
・ペットボトルの中で起こる反応を理解し、開いた系と閉じた系における質量について考えることができる
・＜実験＞の結果から、蒸散量の差について考えることができる

社会A

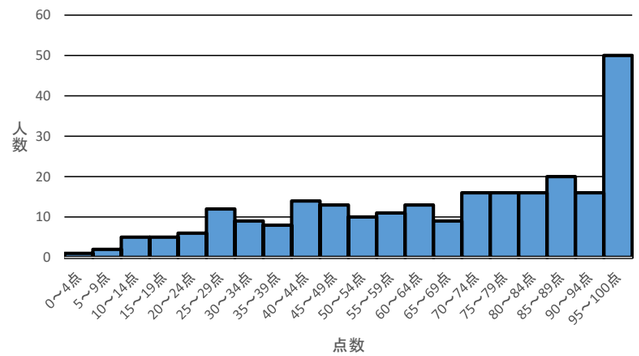


	平均点	無回答率
島本町	61.7	3.1
大阪府	54.2	3.5

良好
・東廻り航路について理解している
・大航海時代に起こったできごとの推移を考察することができる

課題
・「やませ」について理解している
・図から読み取れる情報をもとに考察することができる

英語

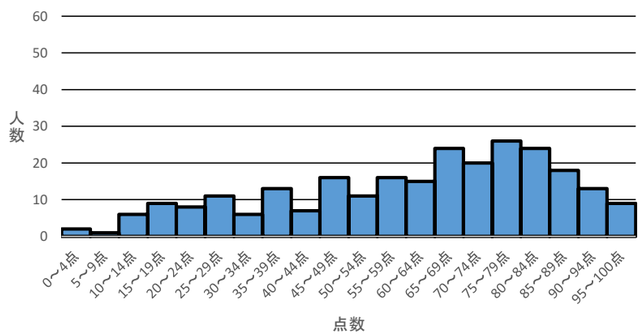


	平均点	無回答率
島本町	66.7	6.5
大阪府	57.1	8.9

良好
・日常的な話題についてのスピーチ原稿を読み、内容の概要と要点を正確に把握することができる
・会話文を読み、やり取りの場面を理解したうえで、文法や語彙の知識を活用し、会話の流れに合う英文を書くことができる

課題
・日常的な話題について、ポスターを読み、それについてのまとまったやり取りを聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を正確に把握することができる

数学



	平均点	無回答率
島本町	60.8	9.1
大阪府	52.2	12.0

良好
・同位角の意味を理解している
・時間と水の量を表すグラフにおいて、グラフの傾きの違いが入る水の量の違いを表すことを理解できている

課題
・連立二元一次方程式の解の意味を理解している
・表やグラフで与えられた情報を読み取り、全体を類推し事象を数学的に解釈することができる

＜結果概要＞
国語：問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で大阪府平均との開きが小さくなった。

社会（本町はA問題）：問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、短答式では大阪府平均との開きが小さくなった。また、地理的分野と歴史的分野を比較すると、地理的分野で大阪府平均との開きが小さくなった。

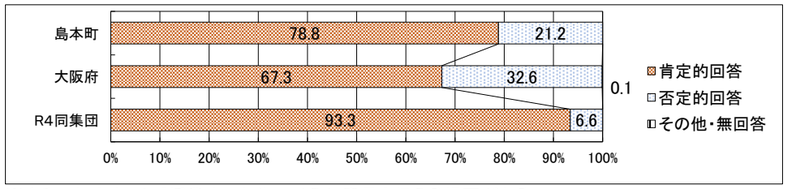
数学：問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、短答式では大阪府平均との開きが小さくなった。一方、いずれの学習指導要領の領域等からの出題においても、大阪府平均と比較してバランスよく得点できていた。

理科（本町はB問題）：問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、選択式では大阪府平均との開きが小さくなった。「粒子」「地球」領域からの出題において、大阪府平均と比較してそれぞれ9．4ポイント、10．2ポイント高い結果であった。

英語：問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となり、特に記述式の得点率で大阪府平均と比較して12．6ポイント高くなった。また、「読むこと」の観点の得点率でも、大阪府平均と比較して9．8ポイント高くなった。

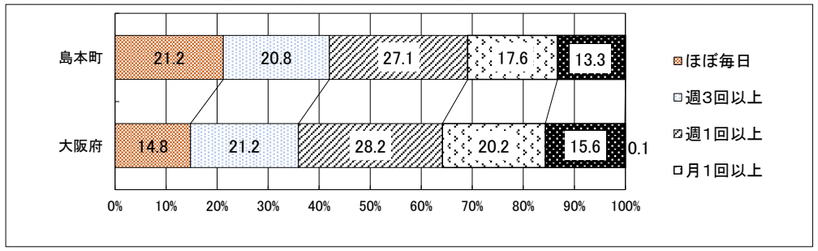
2. アンケート（抜粋）

（3）授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。

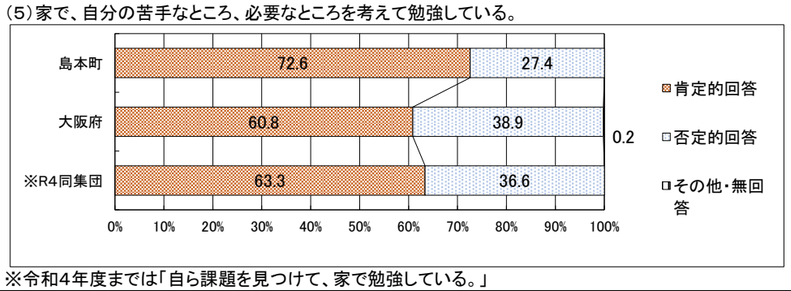


※令和4年度までは「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」

（4）授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。

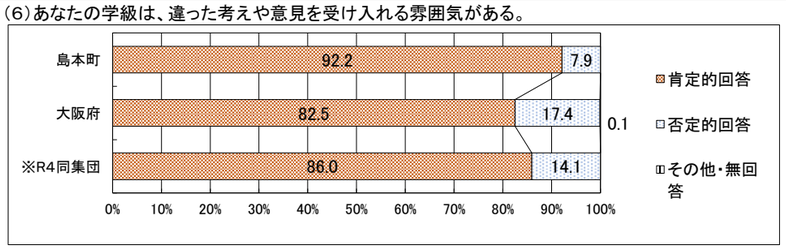


（5）家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。



※令和4年度までは「自ら課題を見つけて、家で勉強している。」

（6）あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。



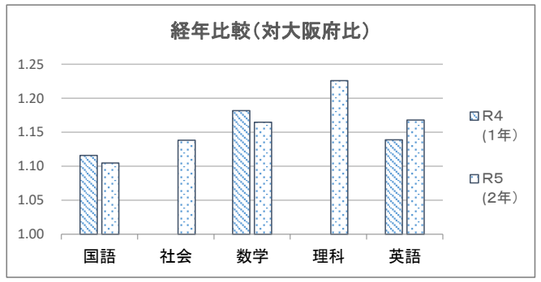
※令和4年度までは「授業中、間違っても笑われない。」

＜アンケート結果について＞
〇本年度からアンケート項目が一新され、同一の項目を用いた分析は不可能となったものの、類似の項目を用いて分析を試みた。（4）については全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果等でも課題となっていたICT機器の習慣的な活用について、使う頻度が「ほぼ毎日」及び「週3回以上」と回答した生徒の割合が、大阪府平均を6ポイント上回った。各中学校において生徒の実態等に合わせた取組実践の成果であると考えられる。（5）については、肯定的回答割合が大阪府平均を11．8ポイント、令和4年度同集団を9．3ポイント上回っていることを学びの自己調整が進んでいることの証左と捉え、今後も生徒が自学自習の必要性に気づき、様々な媒体で学習を続けることができるよう、サポートを続けていく必要があると考えられる。

●一方で、（3）については大阪府平均と比較すると肯定的回答の割合は高いものの、昨年度と比較すると肯定的回答の割合が低下している。思考ツールはあくまで生徒の思考をまとめる際の補助であり、ツールを使用することが目的ではないが、意見表出に苦手意識を持つ生徒に対する一助として、今後も各中学校で研究を進めていく必要がある。

3. 教科別の2か年の推移（1年次は国・数・英のみ）

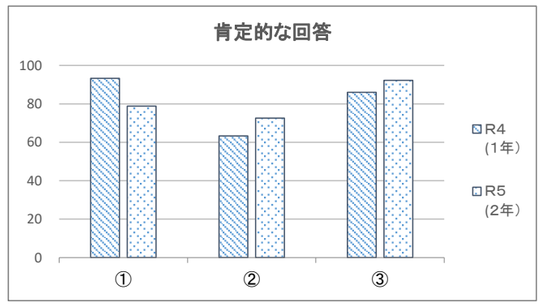
	国語	社会	数学	理科	英語
R4（1年）	1.116		1.182		1.139
R5（2年）	1.105	1.138	1.165	1.226	1.168



4. 教科アンケート　類似質問への肯定的回答状況　質問事項　経年比較

①授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。
※令和4年度までは「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」

②家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。
※令和4年度までは「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。」

③あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。
※令和4年度までは「授業中、間違っても笑われない。」

	①	②	③
R4（1年）	93.3	63.3	86.0
R5（2年）	78.8	72.6	92.2